

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
(全ての観点) ・板書を過不足なく写し、必要なことや調べたいことがあれば適宜調べ、ノートをもとめることができる。 ・全国学力調査の結果で言葉の特徴や使い方に関する事項に課題が見られたため、重点的に取り組む。	・(書くこと) 自分の考えを相手にわかりやすく表現することができる。 ・(話すこと・聞くこと) 聞いたことをメモに取り、必要に応じて活用することができる。 ・全国学力調査ではどの項目も東京都平均を上回っているが、継続して取り組む。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・ノート提出を通し、黒板に書かれていることをプリントやノートに写すことは概ねできているが、黒板に書かれていない話や、他生徒の発言をメモしたり、内容を自分なりにまとめたりすることに課題が見られた。イ	・ノートのまとめ方や、メモしてほしい部分を伝えるとともに、上手にまとめられているノートを共有することで、自分なりにまとめの力を身に付けさせる。	・単元終了毎のノート提出。 通年	
第2学年	・定期テストで、文章で答えるときに、文末表現を間違えたり、書かないことがあったりと「書く」ことに課題が見られた。イ ・ノートの提出を通して、書かれていることをノートに写すことはできるが、聞いた話をメモしたり、自分でレイアウトしまとめたりすることに課題のある生徒が多く見られた。ア	・文中の登場人物のセリフを考えたり、200字作文で自分の意見を表現したりするなど、自分で考え表現する活動を多く取り入れる。 ・定期テストごとにノートを回収し、よくできたものは共有することで、まとめの力を付けさせる。	・各単元ごと 通年 ・定期テスト終了時 通年	
第3学年	・定期テストや実力テストにおける、文章の読解や設問文の読解・答え方に課題が見られる。ア	・多様な文章問題に取り組み、文章に触れる機会を増やす。 ・文章読解の中で、登場人物の心情や、作者の意図を汲み取る機会を増やす。	・夏休み課題 実力テスト・問題実施時 ・通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年 ・ノートを取る際に、プリントを映し出し、一緒にまとめることで書く場所を示し、円滑に作業を進めることにつなげる。【重点:個別】 ・生徒の成果物の収集、共有が円滑にでき、色々なものを見て自身の課題や良さを見つけることにつなげる。【重点:協働】	1・2・3年 「単元学習プリント」を作成し、単元全体を理解した上で実践し、学びの振り返りを行うことで学習の質や見通しをもたせる。

社会

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能 日本の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解し、その中で多摩市独自の歴史や自治の特徴を捉える。また、諸資料を効果的に扱い、主体的に情報を収集する力を身に付ける	イ 思考力、判断力、表現力等 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる様々な課題を解決するために、主体的に考え、自分の意見を述べ、または他人の意見を理解することができる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題文やグラフ、表などの読み取りを苦手とする生徒が多い。ア 授業中に得た知識を整理し、自分の言葉に落とし込むことができない生徒が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業で問題文やグラフ、表など、インターネットやスライドを活用して情報の収集と整理する時間を設定し、読み取る際のポイントをつかむことができるようにする。 各授業の導入で本時の流れ・課題を確認し、まとめて本時の授業の課題を自分の言葉で整理し、共有する振り返りの時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業 毎回の授業 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 1年生と比較し、資料を読み取る力や自分の考えを文章にして表現する力は身に付いてきているが、複数の資料を関連させる表現においては対応できない生徒が多い。ア イ 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業の導入で本時の流れ・課題を確認まとめて本時の授業の課題を自分の言葉で整理し、共有する振り返りの時間を設定する取り組みを継続する。 各授業で問題文やグラフ、表など、インターネットやスライドを活用して情報の収集と整理する時間を設定し、読み取る際のポイントを養う。 単元の学習をレポートにして、自分の言葉でまとめる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業 単元末 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 授業で得られた知識はその都度活用することができるが、過去に得られた知識(主に1・2年次)を活用することができない生徒が多い。ア イ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、過去に得られた知識を活用する場面を設け、知識の定着を図るようにする。 単元の最初に扱う内容の概要を説明し、単元終了後に、振り返りを行い、再度得られた知識を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業 単元の最初と最後 	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>○学習に必要な資料を、タブレット端末の特性(スクロールによる拡大)を十分に活かして明示する。【重点:個別】</p> <p>○授業の配信を行うことで、欠席した生徒にも十分に学習の継続や参加の場を確保する。【重点:個別】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 各授業の導入で本時の流れと課題の確認及び振り返りの実施。タブレット端末の活用により資料活用の技能の向上を図る。</p> <p>2年 授業の導入で本時の流れと課題の確認及び振り返りの実施。これまでの学習内容との関連を重視する授業展開を工夫する。タブレット端末の活用により資料活用の技能の向上を図る。</p> <p>3年 授業の開始時に目標や目当てを明示する。また、導入時にタブレット端末を活用し興味・関心を引き寄せる。</p>
--	---

数学

令和5年度 多摩市立多摩永山中学校 授業改善推進プラン 教科名

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<input type="checkbox"/> 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> 思考力、判断力、表現力等
<p>・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>・全国学力調査では東京都平均を上回っているが、継続して取り組む。</p>	<p>・数学を活用して、事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。</p> <p>・全国学力調査では東京都平均を上回っているが、継続して取り組む。</p>

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>・基本的な計算力は多くの生徒が身に付いている。しかし、基本を活用した文章題は問題文の意味が読み取れないなどの課題がある。<input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>・グループ学習で生徒同士の対話する機会を設定する。全体での学び合いでの多様な意見を統合的・発展的に考えさせる活動を充実させる。</p> <p>・振り返りシートを適切に評価し、そこでの指導・助言を大切に、言語活動を充実させていく。</p>	<p>・通年での授業</p>	
第2学年	<p>・学力が身に付いている生徒と身に付いていない生徒で二極化している。基本的な内容の概念の定着、文章題の内容の理解、複数の内容を組み合わせた問題の解決に課題がある。<input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>・既習内容を確認しながら、新しい内容に取り組む。</p> <p>・基本的な内容の問題に取り組む演習時間を確保する。基本的な内容が身に付いていない生徒には個別指導をし、身に付いている生徒には応用課題に取り組ませ、応用力を身に付ける。</p> <p>・家での復習の推進。</p>	<p>・通年での授業</p>	
第3学年	<p>・基本的な計算力、数学的な見方、考え方は身に付いている生徒が多い。しかし、それらの見方、考え方を活用して、応用的な問題を解決する能力に課題がある。<input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>・1つの問題の解法が複数ある場合、複数の解法があることを伝え、初めに解いた解法以外のものを考える時間を確保する。また、その解法を解説する。</p> <p>・新しい単元を扱う際には、既習の単元とのつながりを意識させるような指導を行う。</p>	<p>・通年での授業</p>	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>【個別最適な学び】 デジタル教科書を利用して、授業でのユニバーサルデザイン化を実現する。ICT機器を活用し、板書の量を減らし、机間指導に時間を充実させる。</p> <p>【協働的な学び】 生徒のワークシートやノートを共有し、意見を深める活動を充実させる。</p>	<p>単元ごとに「単元の振り返りシート」を作成し、単元の見通しをもたせている。単元終了後は単元を通してできるようになったこと、疑問に思ったこと、生活に生かせることを考えさせ、学習の振り返りを行っている。</p>

理科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けていること	自然の現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・実験・観察は興味をもち、主体的に行うが、花のつくりのなどの自然現象に関する知識の定着が不足している生徒がいる。ア	・練習問題プリントや単元テスト、小テストを行い、知識の定着を図る。 ・授業中の発問の中に、既習事項を問う内容を入れていく。	・10月、11月、12月	
第2学年	・気象単元における空気中の水蒸気量や湿度を求めると、計算を要する問題に多くの生徒の苦手意識が感じられる。イ	・物質単元、エネルギー単元においても計算を要する問題においてスモールステップでの問題練習を行い、苦手な生徒でも段階的に取り組めるようにする。	・11月、12月	
第3学年	・実験・観察は興味をもち、主体的に行うが、考察の検討や理論の原理を苦手とする生徒が多い。イ	・実験レポートなどの考察をスモールステップで考えられるように作成し、つまずきの箇所を明確にし、その後の主体的な学習につなげる。	・10月、11月、12月	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1年 顕微鏡観察でタブレットのカメラ機能を用いる。【重点:個別・協働】</p> <p>2年 ロイノートを使用して実験結果を共有する。【重点:協働】</p> <p>3年 インターネットを使用した情報の収集と整理【重点:個別】</p>	<p>1年 生徒自らが自然現象に対する学習課題を見出す場面の設定</p> <p>2年 ワークを用いた学習内容の理解度確認の実施</p> <p>3年 生徒自らが課題解決の方法を立案し、検証する場面の設定</p>

音楽

音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input checked="" type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解すること	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませ、また他者のイメージに共感し、音楽表現として工夫できること

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 音楽記号について理解に課題があった。<input checked="" type="checkbox"/> ア 歌唱において発声の仕方に課題がある。(変声期の男子生徒も含め) <input checked="" type="checkbox"/> イ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業において繰り返し音楽記号を提示して理解を促す。 一人一人の声が、発達のどの段階にあるか、またはどのような発声をしているか聞き、発声方法について指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業 9月以降 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲における背景や、曲の構造について、理解に課題がある。<input checked="" type="checkbox"/> ア 男子の歌唱におけるハーモニーの捉え方に課題がある。<input checked="" type="checkbox"/> イ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の最後に本日の振り返りを必ず行い、授業の始めに前回の復習から始め、知識の定着を図る。 声量だけではなく、美しいハーモニーを作るために常に聞くことを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月 9月以降 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 音符や休符の正確な理解に課題がある。<input checked="" type="checkbox"/> ア 鑑賞において、音で表現されているイメージをとらえることに課題がある。<input checked="" type="checkbox"/> イ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業において繰り返し音楽記号を提示して理解を促す。 映像や絵などを用いてイメージの世界が広がるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業 9月以降 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 鑑賞において意見を載せ、共有すること【重点:個別・協働】 2年 歌唱の録音で音の確認【重点:個別・協働】 3年 映像や絵などのイメージ共有【重点:個別・協働】	1年 授業ごとに学んだことを振り返る時間の設定をする。 2年 授業の最初と終わりで学習の振り返りを行う。 3年 授業ごとに目標の設定を行う。

美術

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・技能には差があるので、基本はおさえ個別対応している。<input type="checkbox"/>ア ・鑑賞の言葉による表現力が足りない部分がある。<input type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に能力が違うので、それぞれに合うやり方を提示しながら伸ばしていく。 ・全体鑑賞→ガイドによりより細かく言葉を引き出していき。ここでは、問いかけをしながら表現できる言葉を引き出す。 		
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・応用力不足のため、基本をしっかりとおさえ、個々に対応している。<input type="checkbox"/>ア ・言語表現力の不足、伝達能力の向上が必要である。<input type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の他に多様なやり方を提示し、個々に合うものを選択できるようにする。 ・周りの意見も取り入れ表現の幅を広げ、個々の表現を引き出す。 		
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・応用の多様化が必要である。<input type="checkbox"/>ア ・言語表現の強化が必要である。<input type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・技法だけでなく画材、材料の特徴や組み合わせによる表現の多様性を示す。 ・他者の意見を基に代表的な作家の表現からも工夫や特徴を読み取り表現の幅を広げる。 		

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ時の調べもの【重点:個別】 ・できた作品を写真で共有し、鑑賞。【重点:協働】 ・参考作品、鑑賞作品を見てイメージをふくらませる。【重点:個別】 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元プリントから個人の自己評価表の活用。 ・作品カードの制作の振り返り。
---	---

保健体育

保健体育科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付けること。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養うこと。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が得意な生徒と不得意な生徒の差が大きく、技能の取得に差が見られた。ア ・自身の動きを客観的に捉え、課題を解決するための練習方法を考えることに、課題が見られた。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で教え合う活動を増やししながら、体の使い方を含めて指導をする。 ・ICT 機器を活用し、自身の体の使い方を見て課題解決の方法を探る指導をする。 	通年で行う。	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に持久力や柔軟性が低い。関節の可動域が小さい傾向がある。持続的にかつぐイミックに動くことができず、運動に対する苦手意識が強い傾向がある。ア ・自身の生活と照らし合わせて、課題を発見することに課題が見られた。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに動的ストレッチと5分間走、授業の終わりに静的ストレッチを継続させる。運動の基礎・基本を無理なく繰り返す中で運動に対する自信を付けさせる。 ・授業はじめ、授業終わりに課題及び自身の考えを表現する活動を取り入れる。 	通年で行う。	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・体力不足、運動不足からのけ怪我がある。ア ・種目によって得意、不得意が激しい傾向がある。不得意だと感じると始めからあきらめてしまうこともある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上を意識した運動を継続していく。持久力を向上させ、疲れにくい体と心を身に付けさせる。 ・自身やチームの課題を見付け、工夫し、挑戦していく楽しさを繰り返し経験させる。 	通年で行う。	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年 写真や動画機能を用いて記録を残す。【重点:個別】 自ら画像や動画を収集し、それを基に練習方法を考え、実践する【重点:個別、協働】</p> <p>2年 インターネットを活用し、情報収集を行い、付箋機能を活用(書き出し)【重点:個別】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 単元ごとに目標設定、振り返り活動を行う。</p> <p>2年 ワークシートを活用して、自身の生活と照らし合わせた毎時間の振り返り。</p>
--	--

技術・家庭

技術・家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりにおいて、手先の器用な生徒とそうでない生徒がいる中での一斉の授業では技能の取得に差が見られる。<input type="checkbox"/>ア 活動内容を理解することができる生徒とそうでない生徒によって進度に差ができる。<input type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容を明確にするため、見本作りの準備、流れを分かりやすくするための工夫に心がける 師範のビデオの準備などでだれでも分かる授業展開を工夫する。 	9月から12月	1月
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間の中での調理実習で基礎的な技術を身に付けるのは難しい実態にある。また、家庭環境によってできる生徒、できない生徒の差がある。<input type="checkbox"/>アイ 	<ul style="list-style-type: none"> 数回の調理実習の課題を発展性のあるものにし、前の調理の技術を生かせるような工夫をする。 	9月から12月	12月
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 実践的ものづくりでは、計画の段階で必要な知識の定着がされていないため、アイデアに乏しいことがある。<input type="checkbox"/>イ 作業に意欲的に取り組む生徒、とそうでない生徒に差が見られる。<input type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> 計画を立てる前の事前学習をしっかりと行っていく。 作業計画も明確に立て、期限の中で完成するように導いていく。 	9月から12月	1月

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>・タブレット端末で作品の写真を撮り、生徒同士で見合うことで学習の効果を高める。【重点:個別、協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>・映像を用いて活動内容を視覚的に理解させ、見通しをもたせる。また、発展性のある課題を設定することで、意欲的に取り組ませる工夫を行う。</p>
---	--

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> ・正確な文法と正しい語順を常に意識して、文を組み立てる技能を身に付ける。 ・全国学力調査の結果が東京都平均を上回っているが、継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちを簡単な語句や文で伝える力を身に付ける。 ・全国学力調査の結果が東京都平均を上回っているが、継続して取り組む。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・理解している生徒と、理解できていない生徒の差が顕著である。be 動詞と一般動詞の違いを理解できない生徒も少なくない。ア ・語順の理解に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業における音読練習、会話練習、英作文練習を継続し、その中で英語らしい語順が習得できる学習課題を用意する。 ・3文で文章を書く練習を継続的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間 ・週1回程度 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語の習得が不十分である。ア ・単語を知っていても、語順の理解が不十分で、英作文に対する苦手意識が強い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・スプリングコンテストや、デジタル教科書を活用して単語力を付ける。 ・自分の意見をまとめ、伝えられるようにするため、音読や英作文パターンプラクティスに継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月、11月 ・毎時間 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況に合わせた正しい文章表現を選ぶことに課題が見られる。ア ・「聞くこと」「読むこと」に比べて「書くこと」に課題のある生徒が多くみられる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読、会話練習をすることで、語順を意識し、簡単な語句で言い換える練習を積み重ねる。 ・自分の意見を順序立てて英語で表現するために、接続詞や副詞の表現に多く触れ、順序立てて文章を組み立てる練習を継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間 ・週1回程度 	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>1・2年 Unitごとに音読を撮影し、提出。英語らしいリズムを意識して音読する意識をもつ。【個別】</p> <p>3年 「話すこと」のトレーニングとしてリテリング・ディクテーションを撮影し振り返ることで、表現力を充実させる。【個別・協働】</p>	<p>1・2年 自主学習ノートへの取り組みを継続。出された課題でなく、自ら課題を見つけて取り組む。また、取り組みへの振り返りを行っている。</p> <p>3年次の ESAT-J につながるよう、毎時間の会話練習を継続。【個別・協働】</p> <p>3年 ESAT-J やオンライン英会話で実際に使えるよう、会話練習を継続。【個別・協働】</p>